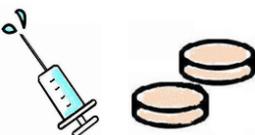


コホリン+リツキシマブの治療をお受けになる方へ

★治療スケジュール

症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。

お薬の名前	1日目	2～14日目
吐き気止め	 5分	お休み
コホリン (ペントスタチン)	 5分	お休み
インフュージョン・ リアクション予防		お休み
リツキシマブ	 緩徐に ^{注1}	お休み

注1

初回は点滴の速さを3段階（25mL/時間→100mL/時間→200mL/時間）に分けて少しずつ上げていきます。

2回目以降は始めの1時間は100mL/時間、その後体調に変化がなければ200mL/時間で点滴します。

インフュージョン・リアクションを予防するお薬

- ・カロナール錠 200mg 2錠
- ・ポララミン注 5mg 1管

★起こりやすい副作用 これらの副作用が、すべての方に起こるわけではありません。

〈血液検査からわかる副作用〉

白血球減少

白血球は体内へ進入した細菌から体を守る重要な役割があり、治療開始後10～14日頃に最も少なくなり、菌やウイルスに感染しやすくなります。

⇒日頃から手洗い、うがいなどの感染対策を！ 白血球が少ない時期は人ごみを避けましょう。

貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつきなどの症状としてあらわれることがあります。場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

血小板減少

血小板は出血した時に血を止める働きがあります。血小板が少なくなると、歯肉からの出血や内出血、鼻血などが起こりやすくなります。

⇒血小板が少ない時期は、ケガをしないように注意して下さい



腎機能障害

抗がん剤の影響で腎臓がうまく働かなくなることがあります。腎臓の働きが悪くなると、お薬が体内から抜けにくくなり、副作用が強くなる場合があります。コホリンの投与前後で水分の点滴を行います。

〈ご自身でわかる副作用〉

インフュージョン・リアクション

初回の点滴時にもっともおこりやすい症状です。点滴中に『寒気』『気分が悪い』『顔や体がかゆい』『息苦しい』『頭痛』などの症状がおこった時は、すぐにスタッフを呼んで下さい。

悪心・嘔吐・食欲不振

個人差の大きい副作用です。治療時期に合った吐き気止めを使います。ただし、水分もとれない場合は病院へ連絡して下さい。

⇒食欲がなくても、水分はしっかりとるようにして下さい。

※B型肝炎の急激な悪化

B型肝炎ウイルスに罹患している方で、リツキサンの治療中や治療終了後に、病状が急激に悪化することがまれにあります。血液検査等で十分に注意をしていきますが、治療中や治療後に、強い倦怠感、黄疸（目や手足、尿などが黄色くなる）などの症状が現れた場合は、すぐにご連絡下さい。



★すぐに連絡をいただきたい副作用

★「ふるえ」、「悪寒」、「38℃以上の発熱」、「肌のほてり」、「紅潮」（敗血症）

※ここに記載した副作用以外にも、体の異常を感じたら病院にご連絡ください。

●緊急連絡先●

横須賀共済病院（代表）：046-822-2710

月～金曜日の8：30～17：15は「治療を受けた診療科」
それ以外の曜日、時間帯は「急患室」
にご連絡ください。